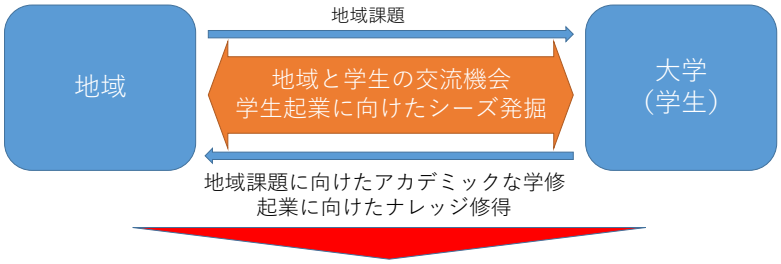
亀川商店街再活性化計画策定事業（Ⅳ）

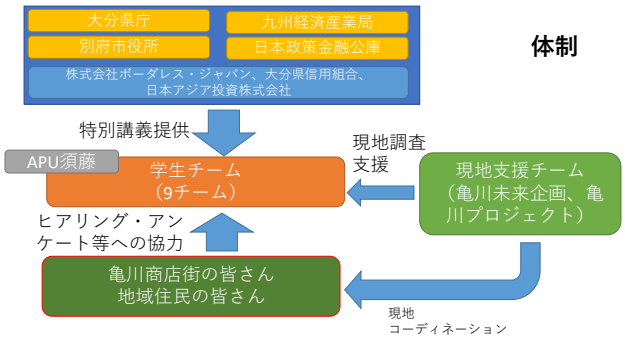
立命館アジア太平洋大学サステイナビリティ観光学部　教授　須藤智徳

0.　背景

亀川商店街は別府市の北部にある商店街で、ＪＲ亀川駅から徒歩５分に位置する南北約９００ｍの商店街である。近年は来街者も減少し、経営者の高齢化・後継者難や空き店舗の増加等問題を抱えている。2018年にはその中核店舗であったマルショク亀川店が閉店したが、2020年に試験的に空きビルを活用して、APUの学生が期間限定のカフェを開業したところ、近隣住民から高い評価を受け、その後APU学生による「無料のスーパーマーケット」の期間限定実施した際にも多くの来店客が訪れる等、商店街活性化のポテンシャルは十分にあることが確認できている。他方で、住民の高齢化に配慮し、イベント等による騒音の発生等に留意し、すべての住民にとって受け入れ可能で持続的な取り組みを行なっていく必要がある。



大分県等と連携し、実践型の起業家を目指す学生に対し、課題発見、課題解決および提案力を構築するとともに、起業に必要な手続きや資金調達、企業経営等の実践的な知見の修得を目指す。

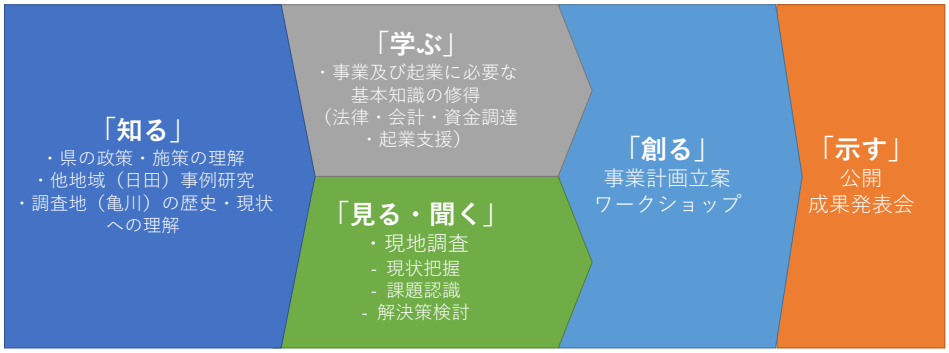


1．本事業の目的

本事業は、これまでの当該授業での経験と学生たちによる亀川商店街での試験的なビジネス実施実績を踏まえ、亀川商店街の課題を特定し、同商店街の特性を活かしたビジネスによる商店街活性化方策を検討し、もって亀川商店街の活性化を図ることを目的とする。

2．実施内容

本事業は、秋セメスター開講科目「環境・開発　特殊講義/専門実習」として実施し、14回の授業のうち、8回は教室での講義（うち5回はゲストスピーカーによる講義）、2回は教室でのワークショップ、2回を現地フィールド調査、１回をパイロット事業実施、1回を公開発表会開催とした。



1	10月3日	イントロダクション
2	10月10日	**経済産業省･ボーダレスジャパン特別講義**
3	10月17日	亀川商店街の課題と取組（堀文、亀川未来企画）
4	10月24日	大分県の新長期総合計画（大分県庁）、別府市の地域課題と政策（別府市役所）
5	**11月2日**	**現地調査（現地状況の把握）**
6	11月7日	起業とは、起業に必要な法律・会計の基礎知識
7	11月14日	資金調達手法
	11月21日	QB
8	**11月30日**	**現地調査（社会課題の特定）**
9	**12月5日**	**事業計画立案手法（ワークショップ１）**
10	**12月12日**	**事業計画立案手法（ワークショップ２）**
11	12月19日	公的金融機関による起業支援（日本公庫）
	12月26日	Christmas Break
	1月2日	New Year Break
12	1月9日	金融機関及びVCの役割（大分県信用組合、JAIC）
13	**1月18日**	**計画事業パイロット実践**
14	**1月25日**	**最終プレゼン**

本事業は、①「知る」地域の把握、②「学ぶ」基礎知識の修得、③「見る・聞く」現地フィールド調査、④「創る」事業形成、⑤「示す」公開成果発表、の５部で構成。

ゲスト講師による講義

パイロット事業

発表会（ポスターセッション）

参加者全体写真

立案した事業の実施と協働化の方向性

本事業を通じ、学生が亀川の歴史や地理、文化を知るきかっけとなるとともに、亀川地区が抱える社会課題に対し、単なる一過性のイベントではなく、持続可能なビジネスの実施を前提とした事業提案を検討、実際にパイロット事業として実施したうえでブラッシュアップを行なうことで、事業立案及び実施への実践的な学びとなっている。

本事業で策定した事業案は成果報告会にて亀川商店街関係者、地域住民等とも共有され、学生が引き続き具体的な事業化を進める場合にも公的サポートや地域住民からの支援を得られやすい環境となっている。

更に、学生が自らが事業を実施することを選択しなかったとしても、提案あった事業は亀川商店街関係者及び地域住民に引き継がれるとともに、来年度希望する学生がいれば、その学生らと連携して地域住民が自ら事業実施を図ることが可能となる。

一過性のイベントではない事業形成を行なう本事業に対する亀川商店街関係者及び地域住民の評価は高く、本事業の継続が強く望まれている。

3．まとめ

本事業を通じ、受講学生たちの研究成果を地域住民と共有する機会となり、学生による新たなアイデアを生かした地域振興を図る活動を始めていくきっかけとなった。また、受講学生たちは、今回のフィールドスタディで地域の魅力を感じ始めており、今回、本事業を通じた協働を行なったことで地域住民とのつながりを深めることができた。今後、地域の魅力をより具体化するとともに、地域住民とともに地域活性化に更なる貢献を果たすことが期待される。